



おとひめ

令和7年11月21日(金)



アイ I メッセージ

山口小学校長 吉村 康介

ある朝、校舎の廊下を歩いていると、1年生の児童が元気よく「校長先生！」と声をかけてくれました。駆け寄ってきたその子は、なんだか嬉しそうにこう言いました。

「校長先生、今日ね、一番にカバン片付けをしたよ！」

私は「それはすごいね！朝から気持ちがいいね。今日一日頑張れるね！」と声をかけると、「うん」と返事をしてくれました。

さらに「校長先生もうれしいな」と言うと、「どうして？」と聞かれました。

「君ががんばると、校長先生もうれしい気持ちになるんだよ」と伝えると、それがうれしかったのか、その子はにっこり笑って、とても軽やかな足取りで教室へと向かっていきました。

このようなやり取りの中で、ふと昔のことを思い出しました。もう何年も前の話になりますが、生徒指導の研修を受けたときのことです。その研修では、「子どもとの関わり方」について深く学ぶ機会がありました。

特に印象に残っているのが、「You メッセージ」ではなく「I メッセージ」で伝えることの大切さです。たとえば、「あなた (You) は残さず食べて偉いね」という言葉は、行動を評価する“ほめ言葉”ですが、「あなたが全部食べててくれて、私 (I) はうれしいよ」と伝えると、その子の行動が誰かの気持ちに影響を与えていていることに気づかせることができます。「ほめる」ことももちろん大切ですが、それ以上に、子どもの存在や行動をありのまま受け止めて、I メッセージという形で「認める」ことこそが、子どもたちに自己肯定感を育むことにつながるというのです。

さらに、この研修では、「cannot の質問（否定質問）」より「can の質問（肯定質問）」をすることの大切さも教えていただきました。例えば、「なぜ来られないの？」ではなく「どうすれば来られそう？」という質問です。また、質問は「過去質問」より「未来質問」がよいということです。「なぜすぐにしなかったの？」ではなく「今からできることは何か？」という具合です。否定ではなく可能性に目を向けること、過去ではなく未来に焦点を当てること、それが、子どもたちが「自分はできる」「これからがんばれる」と思えるきっかけになるということです。何かの参考になるでしょうか。